

色彩語の意味拡張メカニズムに関する研究

—中国語の“赤”“紅”と日本語の「赤」「紅」を中心に—

李 静 晓

要 約

認知意味論では、語の意味を以下の三つの観点から捉えている。即ち、①意味は、対象に対する人間の主体的な捉え方を反映したものである。②意味の把握には百科事典的意味を考慮する必要がある。③合成語の意味は、単に構成要素の意味を足し合わせたものでもなければ、構成要素の意味と全く関係ないのでもなく、構成要素の意味を基盤にした上、更に意味が限定されたものである。また、語の意味は時の流れと共に変化・拡張していくものである。このような意味の変化・拡張に何らかの仕組みがあることが予想される。認知意味論の視点から、吉村（2004）、松本（2003）、初山（2002）などの認知意味論における語の多義性の考え方を取り入れ、中国語の“赤”・“紅”と日本語の「赤」「紅」の意味拡張メカニズムを究明するつもりである。

【キーワード】

認知意味論、メタファー、メトニミー、シネクドキー、意味拡張メカニズム、意味拡張ネットワーク

1. はじめに

現代中国語にも現代日本語にも、赤・紅が色彩語として用いられている。中国語の“紅”“赤”と日本語の「紅」「赤」、それぞれは意味と用法において似ているものが多いが、それぞれは自分の独特な意味を有する。中国語の“赤”“紅”と日本語の「赤」「紅」とが、それぞれどのような意味項を有するのか、またそれぞれが有する複数の意味項は、どのようなメカニズムによって拡張されてきたのか、また拡張されてきた意味項とプロトタイプ意味との意味拡張関係および意味項間の意味拡張関係がどのようになっているのか、中日両言語における拡張プロセスはどのような異同があるのか、何故そのような異同が起こったのか、などが問題になってくる。

本研究は、認知意味論の視点から、吉村（2004）、松本（2003）、初山（2002）などの認知意味論における語の多義性の考え方を取り入れ、以上のような先行研究が未解決する問題に取り組み、プロトタイプ、スキーマ、多義性、意味拡張の動機付けなどの概念を用い、認知意味論における語の意味分析課題に基づき、主に中国語の“赤”“紅”と日本語の「赤」「紅」の

- ①プロトタイプの意味、
- ②それぞれ有する意味項と各意味項の意味、
- ③意味項間の意味拡張メカニズム、

を明らかにするつもりである。その上、中国語の“赤”“紅”と日本語の「赤」「紅」の意味拡張プロセスを辿り、中日両言語における赤・紅の意味と用法の異同及びその原因を究明したいと考えている。

2. 中国語の“紅”の意味

2.1 辞書による中国語の“紅”の意味

中国語の“紅”に関して、筆者は《現代汉语词典》、『中日・日中辞典』、『当代汉语词典』、『现代汉语大词典』、『辞海』などの辞書を調べ、辞書や例文による中国語の“紅”の意味と用法を考察した。以下の表1にまとめている。

表1 辞書による中国語“紅”の意味

意味項	辞書 《現代 汉语词 典》	『中日・ 日中辞 典』	《当代 汉语词 典》	《现代 汉语大 词典》	《辞海》
色	○	○	○	○	○
赤い布・赤い絹	○	○	○	○	×
順調・成功・重視・人気・繁盛の象徴	○	○	○	○	○
革命的、政治的自覚が高い	○	○	○	○	○
利潤	○	○	○	○	○
婉曲的に血や月経	×	×	○	○	×
花	×	×	×	○	×
慶事	×	×	×	×	×
赤める、赤になる。	×	×	×	○	×
姓	○	○	×	×	×

2.2 中国語の“紅”の意味と例文

以上のいくつかの辞書の解釈を参考の基に、データベースの例文を参照しながら、“紅”の意味は、姓を表わすほか、下記のように分類できると思われる。

◆ “紅”の意味

- ① 鮮血・火・石榴の花などのような色で、広く一般の赤い色を指す。
- ② 赤色を表す意味から転喻手法を通し、慶事を象徴する赤い布・赤い絹を指す。
- ③ 順調や成功、または人から重視されたり歓迎を受けられることの象徴。順調だ。幸運だ。人気がある。生活・商売などが隆盛である。
- ④ 革命的、政治的自覚が高い。共産主義思想を身につけている。
- ⑤ 利潤。
- ⑥ 色を表す意味から、婉曲的に血、特に月経を指す
- ⑦ 花の紅色から花のことを指す。
- ⑧ めでたさ・縁起がよいことを指す
- ⑨ 華やかな様。鮮やかである。艶やかな様子。

◆ “紅”の用例

① 色

※色そのものを表わす。

红宝石 红绿灯 火红 鮮紅的春联

※“紅+ ”の組み合わせで人の表情・感情を表わす。

红光满面 红潮 满脸通红 眼红（红眼）

※“紅+ ”の組み合わせでその職業の人を表わす
红衣主教 红马甲 小红帽

※“紅+ ”の組み合わせである規範的・正式的なものを表わす。

红皮书 红契 红头（文件）

※“紅+ ”の組み合わせで革命や思想面の先進を表わす。

红十字 红领巾 红旗 红旗手

※“紅+ ”の組み合わせで、成功、慶事、お金、順調などのおめでたの時に用いられる。

红榜 红包 红盖头（生意）红火

※“紅+ ”の組み合わせで、京劇などにおける正義を代表する人物を指す。

红净 红生

※“紅+ ”の組み合わせで、艶やか・華やか 俗っぽいの意味を表わす。

灯红酒绿 花红柳绿 红灯区 万紫千红

※“紅+ ”の組み合わせで、美人や女性に関係のあるものを表わす。

红妆 红袖添香 红颜薄命 红颜

※“紅+ ”の組み合わせで、警告・危険などを表わす。

红牌 红灯

② 赤い布、赤い絹。

披红 挂红 披红挂绿 披红戴绿

③ 成功・人気・順調・幸運・重視されるなど。

红运 红人 满堂红 走红

④ 共産主義的・政治的自覚が高い。

红五月 红五类 红区 又红又专 红心

⑤ 利潤。

红股 红利 分红

⑥ 血

见红 红刀子出

⑦ 花

残红 飞红 落红 绿肥红瘦

⑧ 慶事

红白喜事 红事 红线 红娘

⑨ 華やかな様。鮮やか、艶やかな様子。

红男绿女 红尘 描红画绿

また、“红筹股”は、どの意味に属すだろうかまだ分かっていない。

◆ “紅”の例文・意味分析

“紅”が表われる意味を「形態素」としての意味と単独の語としての意味に分けて分析を行い、そして、“紅”の持つすべての意味が色から派生されたものと見なしている。

人間には、ある同一の物・事を様々な程度の詳しさ・精密さで捉える能力が備わっている。認知言語学では、同一の対象を異なるレベルで捉える能力は、言語のあり方を動機付けているというふうに認識している。（舩山、2001）。上記の例から分かるように、“紅+ ”で人・物・出来事などを指す場合もこのような認知能力によるものと考えられる。

“紅+ ”で人の表情、感情を表すことに用いられる。この時の“紅”と組み合わせになる語は「顔・顔と関係あるもの」などが考えられる。人は怒るとき、恥ずかしく感じる時に顔が赤くなり、また、健やかな人の顔が赤くてつやつやしている。人間は涙が流れる時、長時間どこかを見つめて眼が疲れるとき、ひどく恨む時、眼が赤くなる。更に、人は何かを羨望する時に、長い間それを見つめたり望んだりする。そこから“羨望”の意味が生まれ、羨望が程度を増していくと、嫉妬の意味が生まれたと思われる。

“紅+ ”でその職業の人を指している。これらの職業の人が赤い服・帽子を着用することが、他の職業

に無い特徴である。人々は、この特徴に注目し、“红衣主教、红马甲、小红帽”でその職業に携わる人々を識別していると思われる。

“红+ ”で正式的・規範的な文書などを指している。その契約書の内容を認める意味において当事者・取扱い者が印を押したことから“红契”と呼ぶ。また、红头（文件）は政府が高層機関から出す文書や政策のことである。

“红+ ”で革命的や思想面において先進であるという意味に用いられている。ロシアで起こった共産主義革命の旗は赤色である。中国は近代以来、その影響を受け、中国共産党が成立し、その旗も赤色である。従って、“红色政权”“红旗”などで革命の意味を表わすようになった。

中国においては、“红+ ”は縁起が良い・めでたい意味に用いられている。伝統的な祝日の祝い、結婚や出産などの時、赤色が欠かせないものとなっており、中国人は特に赤色を好むようである。これら中国古代からの五行色彩観によるもので、中国文化との関わり視点から深く研究成されてきた。

“红净、红生”の語の中の“红”は、京劇などの役者が使用した隈取の色を意味している。京劇などで正義を演じる役者は赤い隈取をかぶることから、“红净、红生”という単語は正義的・忠誠な人物を指している。

それから、灯火が“红”色を呈しており、また“红”は一般に花の色を指している。灯火も花も多くなると賑やかな雰囲気が漂ってくる。また、近年来灯火が賑やかに瞬く風俗街が、中国語では“红灯区”と呼ぶようになった。

中国では特に“红”色が人々に愛用されている。特に女性は赤い色の服装を着ることが多い。また、美人の顔はいつも赤くつやつやしており、または美人はいつも口紅や頬紅などをさすことから、“红颜薄命、红妆”の中の“红颜、红妆”は美人、女性の美しい化粧のことを指す。“红颜”は更に一般化され、“红颜知己”では、女性のことを意味している。

世界共通で赤色が交通信号で「停止」の意味を表わしており、競技などで赤カードが退場の警告標識に用いられている。このことから、中国では、“红”は危険のことに用いられるようになり、“红灯 红牌”の言葉が生じたと考えられる。

それから、“红”の2番目の意味は「赤い布、絹」である。これは、メトニミーによって拡張された意味である。中国では、おめでた、または光栄の象徴として赤い絹を両肩から胸の前で交差するように掛ける。この意味が関連があると思われる3番目の意味は、成

功、人気がある、物事が順調に進む、運がつく、上司から重視されるなどである。成功や慶事の時、赤い絹・赤い紙などがメインとして使われることから、“开门红、满堂红”の言葉で物事の成功な様子を表わすことが可能になった。成功が続くことで、“红运”に恵まれるといえるだろう。さらに、運がいい・成功することで人々や上司の注目を集め、人気が出ることを考えられる。

また、①の“红”の色の意味から革命的・思想的先進を表わす“红旗”“红旗手”などの合成語が生まれた。この意味から、“又红又专、红心、红五月”のように、“红”は単独の語としても先進・革命・共産主義的などを表わすことが出来る。このような意味・用法は“红”の色の意味から拡張されたものと考えられる。

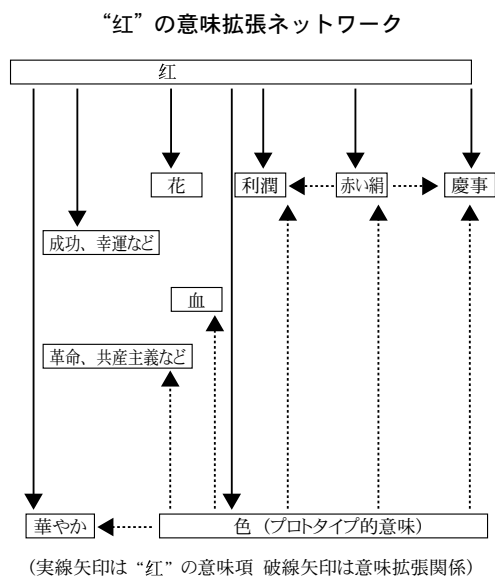
“红包”は元々は赤い紙で包む祝福などを意味するお金のことを指していた。このことから、現代の中国では、赤い紙を包むこと無くてもボーナス・礼金などを“红包”と呼ぶようになった。“红包”はお金のことを指すことから、“红”の意味がさらに拡張され、お金や利潤のことを意味することに繋がった。“分红、红利”の言葉はその現れである。

血の色は“红”である。“见红”“白刀子进、红刀子出”の中で、“红”で血を表わしている。

多くの花が「红」色を呈していることから、“红”は花の色からメトニミーによる意味拡張され、花のことを指すことに用いられ、“飞红、残红”の言葉が生まれるようになった。

“红”色は鮮やか色彩であり、“描红画绿、红男绿女”などが艶やかな物事の色彩を表わしている。“红”は賑やかな場面や雰囲気に多用されており、世間の賑やか・派手な事情が色々あることから、“红尘”という言葉は生まれ、俗世俗世間を意味することと考えられる。

2.3 中国語の“紅”の意味拡張ネットワーク



3. おわりに

“紅”のすべての意味はそのプロトタイプの意味「色」から派生されたものと思われる。花や血の色は赤を呈しているの、メトニミーによって花や血を指すようになったと思われる。それから、赤は鮮やかな色であるから、「華やか・華やかな様子」にも用いられると思われる。中国文化では、赤は南の色で、万物繁盛を象徴している。故に、赤い絹・布を掛ける人は成功する人、運がいい人を表わすようになった。更に成功や慶事の時、赤い絹・赤い紙などがメインとして使わ

れることから、赤は成功、人気がある、物事が順調に進む、運がつく、上司から重視されるなどの意味を持つようになったと推測できると思われる。また、中国伝統では子供の年玉は赤い紙を包むことから、“红包”はほうび金の意味にも用いられるようになった。又この意味から、“紅”は利潤を表わすようになったと思われる。それから、ソ連の社会主義革命の旗などの色は赤いことを始め、近代中国はその影響を受け、“紅”で革命・共産主義または革命的自覚が高いという意味を持たせるようになったと考えられるだろう。

参考文献

1. 江森康文 大山正 深尾謹之 (1991) 編『色 その科学と文化』朝倉書店
2. 風間明 (1997) 『「色」の文化誌』工業調査会
3. 香川勇 長谷川望 (1988) 編著『原色・色彩語事典』黎明書房
4. 財団法人日本色彩研究所 (1993) 編『色彩と人間』日本規格協会
5. 城一夫 (1993) 著『色彩の宇宙誌—色彩の文化史—』明現社
6. 張威 (1998) 著『結果可能表現の研究—日本語・中国語対照研究の立場から』くろしお出版
7. 吉岡幸雄 (2000) 著『日本の色辞典』紅紫社
8. 浜本隆志 伊藤誠宏 (2005) 編著『色彩の魔力—文化史、美学・心理学的アプローチ』明石書店
9. 町田健編・舩山洋介著 (2002) 『認知意味論のしくみ』研究社
10. 松本曜 (2003) 編『認知意味論』大修館書店
11. 吉村公宏 (2004) 著『はじめての認知言語学』研究社

り せいぎょう／北京外国語大学北京日本学研究中心
lijingxiao213@yahoo.co.jp